



平成29年2月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成28年6月24日

上場会社名 株式会社 高島屋 上場取引所 東
 コード番号 8233 URL <http://www.takashimaya.co.jp>
 代表者 (役職名) 取締役社長 (氏名) 木本 茂
 問合せ先責任者 (役職名) 広報・IR室長 (氏名) 園田 早苗 TEL 03 (3211) 4111
 四半期報告書提出予定日 平成28年7月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年2月期第1四半期の連結業績（平成28年3月1日～平成28年5月31日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

| | 営業収益 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 親会社株主に帰属する 四半期純利益 | |
|-------------|---------|------|-------|------|-------|------|----------------------|-------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % |
| 29年2月期第1四半期 | 219,318 | △0.0 | 7,692 | 3.2 | 8,106 | △2.9 | 3,563 | △43.6 |
| 28年2月期第1四半期 | 219,392 | △2.2 | 7,451 | △1.1 | 8,347 | △2.4 | 6,319 | 38.9 |

(注) 包括利益 29年2月期第1四半期 3,197百万円 (△57.8%) 28年2月期第1四半期 7,572百万円 (64.6%)

| | 1株当たり 四半期純利益 | 潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益 |
|-------------|-----------------|----------------------------|
| | 円 銭 | 円 銭 |
| 29年2月期第1四半期 | 10.19 | 8.95 |
| 28年2月期第1四半期 | 17.82 | 15.72 |

(2) 連結財政状態

| | 総資産 | 純資産 | 自己資本比率 |
|-------------|---------|---------|--------|
| | 百万円 | 百万円 | % |
| 29年2月期第1四半期 | 972,331 | 408,224 | 41.0 |
| 28年2月期 | 974,421 | 407,386 | 40.9 |

(参考) 自己資本 29年2月期第1四半期 399,071百万円 28年2月期 398,927百万円

2. 配当の状況

| | 年間配当金 | | | | |
|------------|--------|--------|--------|------|-------|
| | 第1四半期末 | 第2四半期末 | 第3四半期末 | 期末 | 合計 |
| | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 |
| 28年2月期 | — | 6.00 | — | 6.00 | 12.00 |
| 29年2月期 | — | — | — | — | — |
| 29年2月期（予想） | — | 6.00 | — | 6.00 | 12.00 |

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 平成29年2月期の連結業績予想（平成28年3月1日～平成29年2月28日）

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

| | 営業収益 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 親会社株主に帰属 する当期純利益 | | 1株当たり 当期純利益 |
|-----------|---------|-----|--------|-----|--------|------|---------------------|------|----------------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 円 銭 |
| 第2四半期（累計） | 457,500 | 1.7 | 13,900 | 0.6 | 15,800 | △2.5 | 10,000 | △9.4 | 28.61 |
| 通期 | 953,000 | 2.5 | 34,000 | 3.1 | 38,000 | 0.6 | 24,000 | 0.7 | 68.67 |

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 一社（社名）除外 一社（社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

| | | | | |
|---------------------|----------|--------------|----------|--------------|
| ① 期末発行済株式数（自己株式を含む） | 29年2月期1Q | 355,518,963株 | 28年2月期 | 355,518,963株 |
| ② 期末自己株式数 | 29年2月期1Q | 6,029,487株 | 28年2月期 | 6,028,353株 |
| ③ 期中平均株式数（四半期累計） | 29年2月期1Q | 349,490,031株 | 28年2月期1Q | 354,556,949株 |

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社グループが現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信（添付資料）P.4「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

| | |
|------------------------------|----|
| 1. 当四半期決算に関する定性的情報 | 2 |
| (1) 経営成績に関する説明 | 2 |
| (2) 財政状態に関する説明 | 3 |
| (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 | 4 |
| 2. サマリー情報（注記事項）に関する事項 | 5 |
| (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 | 5 |
| (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 | 5 |
| (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 | 5 |
| (4) 追加情報 | 5 |
| 3. 四半期連結財務諸表 | 6 |
| (1) 四半期連結貸借対照表 | 6 |
| (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 | 8 |
| 四半期連結損益計算書 | 8 |
| 四半期連結包括利益計算書 | 9 |
| (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 | 10 |
| (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 | 11 |
| (継続企業の前提に関する注記) | 11 |
| (株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) | 11 |
| (セグメント情報等) | 11 |
| (重要な後発事象) | 13 |
| 4. 補足情報 | 14 |
| (1) 個別決算の概況 | 14 |

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間(2016年(平成28年)3月1日～2016年(平成28年)5月31日)におけるわが国経済は、一部に弱さもみられるものの緩やかな景気の回復基調が続き、訪日外国人増加に伴うインバウンド需要の伸びもあり、国内百貨店業績は堅調に推移してまいりました。しかしながら世界経済の不透明感が増大し先行きは予断を許さない状況にあります。

このような環境のもと、当社グループは百貨店を中心に地域との共創及びグループの不動産業を担う東神開発株式会社のノウハウを活用するなど、街・館の魅力を最大化する「まちづくり戦略」を推進し、業績の改善に努めてまいりました。

その結果、連結営業収益は219,318百万円(前年同期比0.0%減)、連結営業利益は7,692百万円(前年同期比3.2%増)、連結経常利益は8,106百万円(前年同期比2.9%減)となり、親会社株主に帰属する四半期純利益は3,563百万円(前年同期比43.6%減)となりました。

セグメント別の概況は、次のとおりです。

<百貨店業>

百貨店業におきましては、さらなるインバウンド需要の取り込みに向けた新たな電子決済導入による利便性向上や、中国大手オンライン旅行会社「Ctrip」との提携による来店促進などの営業施策により、化粧品を中心に免税販売額が前年同期比2桁増と大きく伸ばいたしました。

新宿店と玉川店では東神開発株式会社と一体となって、まちづくりに取り組みました。新宿店では、新宿駅新南口の再開発工事完了に伴う周辺環境の改善後、タカシマヤタイムズスクエア全体の入店客数が増加し、リニューアルをした食料品を中心に売上が堅調に推移いたしました。玉川店は、ショッピングセンターの核テナントとして上質・高感度を切り口に昨年度実施した売場改装により、増収となりました。大阪店は、徹底した地域MDの推進や特徴化MDの強化により増収となりました。また、京都店は街の華やぎを演出するアクセサリ別館が5月にオープンし食料品の改装と合わせ共に賑わいをみせております。

オムニチャネル化の推進では、和洋酒や銘菓百選などの特徴商材を中心にオンラインストアの品揃えを充実させ、店頭とネットの連動に取り組みました。また、オンラインストア決済時に「友の会お買物カード」を利用できるように、ユーザビリティの向上を図りました。

外部企業とのアライアンスにつきましては、業務提携を開始いたしました株式会社NTTドコモとのポイント連携が4月から本格的に始まり、新たな顧客獲得に向けた相互送客を実施しております。

集客につきましては、日本橋店で開催した「笑点 放送50周年特別記念展」において6万人以上の来場を記録するなど、話題性のある特徴的な催事を開催し、幅広い層のお客様にご来店いただきました。これらの取り組みにより、国内百貨店業は増収増益となりました。

海外では、シンガポール高島屋がお客様の声を生かした売場の改装と、お客様の取り込みに向けたハウスカード戦略、及び海外からのツーリスト対策の強化に取り組み、増益となりました。

上海高島屋では、日本文化の紹介や日本商品を販売する「日本館」を本年1月に拡大し、品揃えを大幅に拡充いたしました。また、ネット販売におきましても食料品と日用品の品揃えの充実や、「日本館」展開商品との連動を強化し、広域からのお客様の獲得に努めました。加えて、文化催事などの強化により入店客数の増加を図り、現地通貨ベースでは売上を伸ばしましたが、為替影響により減収となりました。

この結果、営業収益は192,315百万円(前年同期比0.2%減)、営業利益は3,372百万円(前年同期比4.6%増)となりました。

<不動産業>

不動産業におきましては、東神開発株式会社が既存のショッピングセンターのリニューアル推進に取り組みました。一例として、昨年9月に玉川高島屋S・C別館「マロニエコート」をリニューアルオープンし、玉川高島屋S・Cとして初の早朝営業に対応することとなりました。これにより、地域の皆様に朝のコミュニケーションの場を提供することで、『朝型の新しいライフスタイル』の提案に繋げ業績の向上に貢献いたしました。加えて、立川での事業において運営管理一体化スキームへの移行を実施したことなどが奏功し、増収増益となりました。

また、トーシンディベロップメントシンガポールも円高による為替影響は受けたものの、改装リニューアルの完了によるテナント賃料収入の増加により、増収増益となりました。

この結果、営業収益は10,671百万円（前年同期比3.1%増）、営業利益は2,912百万円（前年同期比11.2%増）となりました。

<金融業>

金融業におきましては、高島屋クレジット株式会社が、百貨店と一体となった新規会員獲得や、カード利用促進策を実施し、会員数ならびにカード取扱高の増加による手数料収入等の増大に努めた結果、増収増益となりました。

この結果、営業収益は3,483百万円（前年同期比5.1%増）、営業利益1,173百万円（前年同期比2.4%増）となりました。

<建装事業>

建装事業におきましては、高島屋スペースクリエイツ株式会社が受注は堅調に推移しているものの、工期の延長などにより減収減益となりました。

この結果、営業収益は4,805百万円（前年同期比3.5%減）、営業損失は80百万円（前年同期は営業利益112百万円）となりました。

<その他>

クロスメディア事業におきましては、ネット事業が堅調に売上を確保し、またカタログ政策の修正による経費削減も進め、収益の改善を図りました。

この結果、クロスメディア事業等その他全体での営業収益は8,041百万円（前年同期比0.1%増）、営業利益は166百万円（前年同期比66.0%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の資産は、972,331百万円と前連結会計年度末に比べ2,089百万円減少しました。これは、投資有価証券が減少したことが主な要因です。負債については、564,106百万円と前連結会計年度末に比べ2,928百万円の減少となりました。これは、未払法人税等が減少したことが主な要因です。純資産については、408,224百万円と利益剰余金等が増加したことにより前連結会計年度末に比べ838百万円増加しました。

営業活動キャッシュ・フローは、6,360百万円の収入となり、前年同期が3,733百万円の収入であったことに比べ2,626百万円の増加となりました。

投資活動キャッシュ・フローは、7,355百万円の収入（前年同期は1,903百万円の支出）となり、9,258百万円の収入の増加（支出の減少）となりました。主な要因は、有形及び無形固定資産の取得による支出が4,189百万円減少したことをはじめ、有価証券及び投資有価証券の売却及び償還による収入が2,681百万円増加したこと、関係会社株式の売却による収入が1,609百万円増加したことなどによるものです。

財務活動キャッシュ・フローは、2,572百万円の支出となり、前年同期が10,690百万円の支出であったことに比べ8,118百万円の支出の減少となりました。主な要因は、長期借入金の返済による支出が17,998百万円減少したことをはじめ、長期借入れによる収入が9,600百万円減少したことなどによるものです。

以上の結果、当第1四半期連結会計期間末の現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ13,804百万円増加し、87,341百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績につきましては、概ね予想通りに推移しております。現時点におきましては、2016年(平成28年)4月12日の決算発表時の業績予想からの変更はありません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

当第1四半期連結会計期間より、非連結子会社でありましたタカシマヤ ベトナム LTD.、株式会社フードアンドパートナーズ、Dear Mayuko株式会社につきましては、重要性が増したため、連結の範囲に含めております。

（持分法適用の範囲の重要な変更）

当第1四半期連結会計期間より、持分法適用関連会社でありました大葉高島屋百貨股份有限公司の全株式を譲渡したため、持分法適用の範囲から除外しております。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

（会計方針の変更）

（企業結合に関する会計基準等の適用）

「企業結合に関する会計基準」（企業会計基準第21号 平成25年9月13日。以下「企業結合会計基準」という。）、「連結財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第22号 平成25年9月13日。以下「連結会計基準」という。）及び「事業分離等に関する会計基準」（企業会計基準第7号 平成25年9月13日。以下「事業分離等会計基準」という。）等を当第1四半期連結会計期間から適用し、支配が継続している場合の子会社に対する当社の持分変動による差額を資本剰余金として計上するとともに、取得関連費用を発生した連結会計年度の費用として計上する方法に変更しております。また、当第1四半期連結会計期間の期首以後に実施される企業結合については、暫定的な会計処理の確定による取得原価の配分額の見直しを企業結合日の属する四半期連結会計期間の四半期連結財務諸表に反映させる方法に変更しております。加えて四半期純利益等の表示の変更及び少数株主持分から非支配株主持分への変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前第1四半期連結累計期間及び前連結会計年度については、四半期連結財務諸表及び連結財務諸表の組替えを行っております。

企業結合会計基準等の適用については、企業結合会計基準第58-2項(4)、連結会計基準44-5項(4)及び事業分離等会計基準第57-4項(4)に定める経過的な取扱いに従っており、当第1四半期連結会計期間の期首時点から将来にわたって適用しております。

これによる損益に与える影響はありません。

(4) 追加情報

法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」（平成28年法律第15号）及び「地方税法等の一部を改正する等の法律」（平成28年法律第13号）が2016年(平成28年)3月31日に公布され、2016年(平成28年)4月1日以後に開始する連結会計年度から法人税率等が変更されることとなりました。これに伴い、2017年(平成29年)3月1日から開始する連結会計年度において解消が見込まれる一時差異等について、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率が従来の32.3%から30.9%に変更されました。また、2019年(平成31年)3月1日から開始する連結会計年度以降において解消が見込まれる一時差異等について、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率が、32.3%から30.6%に変更されました。

この変更により、流動資産の繰延税金資産が170百万円、固定資産の繰延税金資産が309百万円再評価に係る繰延税金負債が237百万円、退職給付に係る調整累計額が28百万円それぞれ減少し、土地再評価差額金が237百万円、その他有価証券評価差額金が329百万円それぞれ増加し、法人税等調整額が783百万円増加しております。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (2016年(平成28年)2月29日) | 当第1四半期連結会計期間 (2016年(平成28年)5月31日) |
|-------------|--------------------------------|-------------------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 75,487 | 89,436 |
| 受取手形及び売掛金 | 119,174 | 123,455 |
| 有価証券 | 2,003 | 999 |
| 商品及び製品 | 41,168 | 43,052 |
| 仕掛品 | 3,947 | 4,146 |
| 原材料及び貯蔵品 | 1,036 | 975 |
| その他 | 48,238 | 37,134 |
| 貸倒引当金 | △430 | △443 |
| 流動資産合計 | 290,625 | 298,758 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 建物及び構築物(純額) | 171,610 | 170,622 |
| 土地 | 231,174 | 231,046 |
| その他(純額) | 14,522 | 14,328 |
| 有形固定資産合計 | 417,307 | 415,997 |
| 無形固定資産 | | |
| 借地権 | 93,712 | 93,712 |
| のれん | 404 | 376 |
| その他 | 14,210 | 13,804 |
| 無形固定資産合計 | 108,327 | 107,892 |
| 投資その他の資産 | | |
| 投資有価証券 | 102,550 | 95,510 |
| 差入保証金 | 33,151 | 33,189 |
| その他 | 25,040 | 23,608 |
| 貸倒引当金 | △2,579 | △2,625 |
| 投資その他の資産合計 | 158,161 | 149,683 |
| 固定資産合計 | 683,795 | 673,573 |
| 資産合計 | 974,421 | 972,331 |

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (2016年(平成28年)2月29日) | 当第1四半期連結会計期間 (2016年(平成28年)5月31日) |
|---------------|--------------------------------|-------------------------------------|
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 支払手形及び買掛金 | 103,363 | 105,775 |
| 短期借入金 | 17,187 | 22,567 |
| 未払法人税等 | 10,045 | 3,862 |
| 前受金 | 82,954 | 86,989 |
| 商品券 | 52,299 | 51,630 |
| ポイント引当金 | 3,233 | 3,380 |
| 建物修繕工事引当金 | 581 | 581 |
| その他 | 55,417 | 54,295 |
| 流動負債合計 | 325,082 | 329,083 |
| 固定負債 | | |
| 社債 | 75,307 | 75,283 |
| 長期借入金 | 62,105 | 56,560 |
| 資産除去債務 | 1,804 | 1,892 |
| 退職給付に係る負債 | 61,875 | 61,231 |
| 役員退職慰労引当金 | 371 | 231 |
| 環境対策引当金 | 366 | 366 |
| 建物修繕工事引当金 | 5,273 | 5,226 |
| その他 | 34,848 | 34,230 |
| 固定負債合計 | 241,951 | 235,023 |
| 負債合計 | 567,034 | 564,106 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 66,025 | 66,025 |
| 資本剰余金 | 55,085 | 55,085 |
| 利益剰余金 | 249,145 | 249,823 |
| 自己株式 | △6,153 | △6,154 |
| 株主資本合計 | 364,102 | 364,780 |
| その他の包括利益累計額 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 17,277 | 17,827 |
| 繰延ヘッジ損益 | △14 | △5 |
| 土地再評価差額金 | 6,907 | 7,145 |
| 為替換算調整勘定 | 11,883 | 10,427 |
| 退職給付に係る調整累計額 | △1,229 | △1,104 |
| その他の包括利益累計額合計 | 34,824 | 34,291 |
| 非支配株主持分 | 8,458 | 9,153 |
| 純資産合計 | 407,386 | 408,224 |
| 負債純資産合計 | 974,421 | 972,331 |

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

| | 前第1四半期連結累計期間 (自 2015年(平成27年) 3月1日 至 2015年(平成27年) 5月31日) | 当第1四半期連結累計期間 (自 2016年(平成28年) 3月1日 至 2016年(平成28年) 5月31日) |
|------------------|---|---|
| 営業収益 | 219,392 | 219,318 |
| 売上高 | 203,899 | 203,340 |
| 売上原価 | 152,160 | 152,525 |
| 売上総利益 | 51,739 | 50,815 |
| その他の営業収入 | 15,493 | 15,977 |
| 営業総利益 | 67,232 | 66,793 |
| 販売費及び一般管理費 | | |
| 広告宣伝費 | 6,916 | 6,428 |
| ポイント引当金繰入額 | 977 | 955 |
| 貸倒引当金繰入額 | 104 | 114 |
| 役員報酬及び給料手当 | 15,966 | 15,782 |
| 退職給付費用 | 1,172 | 959 |
| 不動産賃借料 | 9,066 | 9,112 |
| その他 | 25,577 | 25,746 |
| 販売費及び一般管理費合計 | 59,781 | 59,100 |
| 営業利益 | 7,451 | 7,692 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 126 | 156 |
| 受取配当金 | 89 | 88 |
| 持分法による投資利益 | 771 | 634 |
| その他 | 199 | 174 |
| 営業外収益合計 | 1,187 | 1,053 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 223 | 163 |
| 為替差損 | — | 441 |
| その他 | 67 | 35 |
| 営業外費用合計 | 291 | 640 |
| 経常利益 | 8,347 | 8,106 |
| 特別利益 | | |
| 投資有価証券売却益 | 4,197 | — |
| 固定資産売却益 | — | 67 |
| 国庫補助金 | — | 88 |
| 特別利益合計 | 4,197 | 156 |
| 特別損失 | | |
| 固定資産除却損 | 736 | 580 |
| 関係会社株式売却損 | — | 892 |
| その他 | 38 | 88 |
| 特別損失合計 | 775 | 1,562 |
| 税金等調整前四半期純利益 | 11,769 | 6,700 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 4,556 | 2,360 |
| 法人税等調整額 | 691 | 585 |
| 法人税等合計 | 5,247 | 2,945 |
| 四半期純利益 | 6,521 | 3,754 |
| 非支配株主に帰属する四半期純利益 | 201 | 191 |
| 親会社株主に帰属する四半期純利益 | 6,319 | 3,563 |

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

| | 前第1四半期連結累計期間 (自 2015年(平成27年) 3月1日 至 2015年(平成27年) 5月31日) | 当第1四半期連結累計期間 (自 2016年(平成28年) 3月1日 至 2016年(平成28年) 5月31日) |
|------------------|---|---|
| 四半期純利益 | 6,521 | 3,754 |
| その他の包括利益 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 2,989 | 576 |
| 繰延ヘッジ損益 | 13 | 8 |
| 土地再評価差額金 | 452 | 237 |
| 為替換算調整勘定 | △1,717 | △1,095 |
| 退職給付に係る調整額 | 240 | 112 |
| 持分法適用会社に対する持分相当額 | △927 | △396 |
| その他の包括利益合計 | 1,051 | △556 |
| 四半期包括利益 | 7,572 | 3,197 |
| (内訳) | | |
| 親会社株主に係る四半期包括利益 | 7,369 | 3,029 |
| 非支配株主に係る四半期包括利益 | 203 | 168 |

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

| | 前第1四半期連結累計期間 (自 2015年(平成27年) 3月1日 至 2015年(平成27年) 5月31日) | 当第1四半期連結累計期間 (自 2016年(平成28年) 3月1日 至 2016年(平成28年) 5月31日) |
|--------------------------|---|---|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 税金等調整前四半期純利益 | 11,769 | 6,700 |
| 減価償却費 | 5,045 | 4,996 |
| のれん償却額 | 28 | 28 |
| 貸倒引当金の増減額(△は減少) | 18 | 59 |
| 退職給付に係る負債の増減額(△は減少) | △691 | △396 |
| 役員退職慰労引当金の増減額(△は減少) | 4 | △139 |
| ポイント引当金の増減額(△は減少) | 164 | 147 |
| 建物修繕工事引当金の増減額(△は減少) | — | △46 |
| 受取利息及び受取配当金 | △216 | △245 |
| 支払利息 | 223 | 163 |
| 持分法による投資損益(△は益) | △771 | △634 |
| 固定資産売却損益(△は益) | — | △67 |
| 固定資産除却損 | 352 | 235 |
| 有価証券及び投資有価証券売却損益(△は益) | △4,197 | — |
| 関係会社株式売却損益(△は益) | — | 892 |
| 売上債権の増減額(△は増加) | △1,008 | △3,421 |
| たな卸資産の増減額(△は増加) | △2,444 | △2,054 |
| 仕入債務の増減額(△は減少) | 4,231 | 2,657 |
| その他 | △1,927 | 4,335 |
| 小計 | 10,581 | 13,210 |
| 利息及び配当金の受取額 | 1,526 | 1,382 |
| 利息の支払額 | △170 | △3 |
| 法人税等の支払額 | △8,204 | △8,230 |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 3,733 | 6,360 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 定期預金の預入による支出 | — | △212 |
| 有価証券及び投資有価証券の取得による支出 | △1,767 | △306 |
| 有価証券及び投資有価証券の売却及び償還による収入 | 9,397 | 12,078 |
| 関係会社株式の売却による収入 | — | 1,609 |
| 有形及び無形固定資産の取得による支出 | △10,301 | △6,111 |
| 有形及び無形固定資産の売却による収入 | — | 193 |
| 連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入 | 741 | — |
| その他 | 27 | 104 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △1,903 | 7,355 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 長期借入れによる収入 | 11,600 | 2,000 |
| 長期借入金の返済による支出 | △20,163 | △2,165 |
| 配当金の支払額 | △1,772 | △2,096 |
| その他 | △354 | △310 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | △10,690 | △2,572 |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額 | △2,251 | △1,267 |
| 現金及び現金同等物の増減額(△は減少) | △11,112 | 9,875 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 86,497 | 73,536 |
| 新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額 | — | 3,929 |
| 現金及び現金同等物の四半期末残高 | 75,385 | 87,341 |

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2015年(平成27年)3月1日 至 2015年(平成27年)5月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

| | 報告セグメント | | | | | その他 (注) 1 | 合計 | 調整額 (注) 2 | 四半期 連結損益 計算書 計上額 (注) 3 |
|--------------------------------|---------|--------|-------|-------|---------|--------------|---------|--------------|------------------------------------|
| | 百貨店業 | 不動産業 | 金融業 | 建装事業 | 計 | | | | |
| 営業収益 | | | | | | | | | |
| (1) 外部顧客への 営業収益 | 192,714 | 10,348 | 3,316 | 4,980 | 211,359 | 8,032 | 219,392 | — | 219,392 |
| (2) セグメント間 の内部営業収 益又は振替高 | 1,613 | 1,126 | 1,057 | 1,169 | 4,967 | 6,621 | 11,588 | △11,588 | — |
| 計 | 194,327 | 11,475 | 4,373 | 6,149 | 216,327 | 14,654 | 230,981 | △11,588 | 219,392 |
| セグメント利益 | 3,223 | 2,619 | 1,146 | 112 | 7,101 | 100 | 7,201 | 249 | 7,451 |

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、通信販売事業、卸売事業、衣料品加工業等を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額249百万円は、セグメント間取引消去であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間(自2016年(平成28年)3月1日至2016年(平成28年)5月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

| | 報告セグメント | | | | | その他 (注) 1 | 合計 | 調整額 (注) 2 | 四半期 連結損益 計算書 計上額 (注) 3 |
|--------------------------------|---------|--------|-------|-------|---------|--------------|---------|--------------|------------------------------------|
| | 百貨店業 | 不動産業 | 金融業 | 建装事業 | 計 | | | | |
| 営業収益 | | | | | | | | | |
| (1) 外部顧客への 営業収益 | 192,315 | 10,671 | 3,483 | 4,805 | 211,276 | 8,041 | 219,318 | - | 219,318 |
| (2) セグメント間 の内部営業収 益又は振替高 | 1,569 | 1,159 | 968 | 670 | 4,368 | 5,976 | 10,345 | △10,345 | - |
| 計 | 193,885 | 11,830 | 4,452 | 5,476 | 215,645 | 14,018 | 229,663 | △10,345 | 219,318 |
| セグメント利益又 は損失(△) | 3,372 | 2,912 | 1,173 | △80 | 7,378 | 166 | 7,545 | 147 | 7,692 |

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、通信販売事業、卸売事業、衣料品加工業等を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額147百万円は、セグメント間取引消去であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントの変更等に関する事項

株式会社ファッションプラザ・サンローゼは、従来「百貨店業」に含めておりましたが、リーシング事業の強化のため、2016年(平成28年)3月1日より、東神開発株式会社の100%子会社となりました。このため、当第1四半期連結会計期間よりセグメント区分を見直し、「不動産業」に変更しております。なお、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の区分方法により作成したものを記載しております。

3 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

4. 補足情報

(1) 個別決算の概況

2017年(平成29年)2月期第1四半期の個別決算概況について

I. 実績

(単位：百万円、%)

| | 前第1四半期累計期間 (自 2015年(平成27年) 3月1日 至 2015年(平成27年) 5月31日) | 当第1四半期累計期間 (自 2016年(平成28年) 3月1日 至 2016年(平成28年) 5月31日) | 増減額 | 増減率 |
|------------|---|---|--------|-------|
| 営業収益 | 167,711 | 168,251 | 540 | 0.3 |
| 売上高 | 165,263 | 165,756 | 493 | 0.3 |
| 売上総利益率 | 24.83 | 24.46 | △0.37 | — |
| 販売費及び一般管理費 | 41,240 | 40,555 | △685 | △1.7 |
| 営業利益 | 2,235 | 2,482 | 246 | 11.0 |
| 経常利益 | 4,873 | 5,302 | 429 | 8.8 |
| 四半期純利益 | 5,131 | 2,856 | △2,275 | △44.3 |

II. 店別売上高

(単位：百万円、%)

| | 前第1四半期累計期間 | | 当第1四半期累計期間 | | 増減額 | 増減率 |
|---------------|------------|-------|------------|-------|-------|------|
| | 金額 | 構成比 | 金額 | 構成比 | | |
| 大 阪 店 | 30,174 | 18.3 | 31,083 | 18.8 | 909 | 3.0 |
| 堺 店 | 3,203 | 1.9 | 3,026 | 1.8 | △177 | △5.5 |
| 京 都 店 | 20,472 | 12.4 | 20,363 | 12.3 | △108 | △0.5 |
| 泉 北 店 | 4,285 | 2.6 | 4,155 | 2.5 | △129 | △3.0 |
| 日 本 橋 店 | 31,143 | 18.8 | 32,258 | 19.5 | 1,114 | 3.6 |
| 横 浜 店 | 31,834 | 19.3 | 31,099 | 18.8 | △735 | △2.3 |
| 港 南 台 店 | 2,283 | 1.4 | 2,321 | 1.4 | 37 | 1.7 |
| 新 宿 店 | 17,208 | 10.4 | 17,267 | 10.4 | 59 | 0.3 |
| 玉 川 店 | 9,688 | 5.9 | 9,994 | 6.0 | 306 | 3.2 |
| 立 川 店 | 3,708 | 2.2 | 3,347 | 2.0 | △360 | △9.7 |
| 大 宮 店 | 2,519 | 1.5 | 2,357 | 1.4 | △161 | △6.4 |
| 柏 店 | 8,741 | 5.3 | 8,480 | 5.1 | △260 | △3.0 |
| (株)高島屋計 | 165,263 | 100.0 | 165,756 | 100.0 | 493 | 0.3 |
| 国内 子会 社 | 岡山高島屋 | 4,493 | 4,471 | | △22 | △0.5 |
| | 岐阜高島屋 | 3,712 | 3,665 | | △47 | △1.3 |
| | 米子高島屋 | 1,447 | 1,337 | | △109 | △7.6 |
| | 高崎高島屋 | 3,613 | 3,618 | | 5 | 0.1 |
| 国内子会社を含む総計 | 178,529 | | 178,849 | | 319 | 0.2 |

(注) 1. 京都店には洛西店を含めております。

2. 法人事業部及びクロスメディア事業部の売上高は、それぞれ所在する地区の各店に含めております。

III. 販売費及び一般管理費

(単位：百万円、%)

| | 前第1四半期累計期間 | 当第1四半期累計期間 | 増減額 | 増減率 |
|----------|------------|------------|------|------|
| 人件費 | 13,736 | 13,283 | △452 | △3.3 |
| 宣伝費 | 7,314 | 6,832 | △482 | △6.6 |
| 総務費及び庶務費 | 14,247 | 14,240 | △7 | △0.1 |
| 経理費 | 5,942 | 6,198 | 256 | 4.3 |
| 計 | 41,240 | 40,555 | △685 | △1.7 |

IV. 営業外損益

(単位：百万円、%)

| | 前第1四半期累計期間 | 当第1四半期累計期間 | 増減額 | 増減率 |
|----------|------------|------------|-----|-------|
| 営業外収益 | 3,206 | 3,320 | 114 | 3.6 |
| 受取利息・配当金 | 3,079 | 3,151 | 71 | 2.3 |
| 雑収入 | 126 | 169 | 42 | 33.8 |
| 営業外費用 | 568 | 500 | △68 | △12.1 |
| 支払利息 | 463 | 415 | △47 | △10.4 |
| 雑損失 | 105 | 85 | △20 | △19.5 |

V. 特別利益・特別損失

(単位：百万円)

| | 前第1四半期累計期間 | | 当第1四半期累計期間 | |
|------|------------|-------|------------|-------|
| | | | | |
| 特別利益 | 投資有価証券売却益 | 4,197 | — | — |
| 計 | | 4,197 | | — |
| 特別損失 | 固定資産除却損 | 642 | 固定資産除却損 | 443 |
| | | | 関係会社株式売却損 | 959 |
| 計 | | 642 | | 1,403 |